

潮岬

潮岬は日本最大の島である本州の最南端です。ここはフィリピンからやってくる暖かい黒潮が陸地に最も近づく場所で、世界最北端に住むサンゴ群生の一部が生息することを可能にしています。岬の先には潮岬灯台があります。この灯台は岩の多い岬を進む船を安全に導くために、1878 年に建設されました。日本で初めての石造灯台の一つで、イギリスの技術者リチャード・ヘンリー・ブラントンが設計しました。

1890 年にトルコの船が紀伊大島の近くで座礁し 587 名の犠牲者を出しました。現地の村人は 69 人を助けることができ、トルコに戻るまで世話をしました。この優しさが 2 国間の強くて長く続く関係を育みました。串本のトルコ記念館には悲劇が記録されています。

岬自体はかつては島であり、地震活動が 2 つの海岸段丘を海底から押し上げたときにできました。陸地は徐々に海から上がっていて、年間で 5cm 押し上がり続けています。砂州がゆっくりと半島と潮岬の間に作られて、本土との間を繋いでいます。